

小学校と中学校の学びをつなぐ外国語の指導

小学校における外国語の学習内容や指導方法を中学校において発展的に生かし、外国語による生徒の確かなコミュニケーション能力の育成につなげましょう。

1. 小学校外国語と中学校外国語の主な共通点・相違点

		小学校	中学校
共通点		言語活動を通じた資質・能力の育成	
相違点	英語の特徴やきまりに関する事項	音声／文字及び符号／語、連語及び慣用表現／文及び文構造	音声／符号／語、連語及び慣用表現／文、文構造及び文法事項
	領域	聞く・話す > 読む・書く	聞く・話す・読む・書く※バランスよく
	授業時数	年間70時間（週2時間）	年間140時間（週4時間）

2. 小学校における「読むこと」「書くこと」の指導

小学校では「読むこと」「書くこと」について、中学年の外国語活動では指導しておらず、慣れ親しませることから指導する必要があるため、「聞くこと」「話すこと」と同等の指導を求めるものではないことに留意してください。



読むこと

書くこと

目標

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

指導上の留意点

- 目標にある「読み方」とは、文字の名称の読み方（C → /si:/）であることに留意する。
- 読ませる語句や表現に音声で十分慣れ親しませた上で、言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読むようにする。
- 小学校では音声と文字とを関連付けた指導に留め、発音と綴りを関連付けた指導は中学校で行う。

- 「聞く→読む（識別・発音）→書く」という順序性を踏まえた指導を行う。
- 目的や場面、状況を大切にし、機械的に書かせるだけの指導に終始しない。
- 四線上に正しく書くとともに、語と語の区切りに注意して書かせるよう指導する。

3. 小学校の学びを円滑に接続するための中学校での指導

- 読むこと
小学校で音声中心に学んできた英語を視覚化（文字化）することにより、文や綴りなどの正しい理解につなげるとともに、文構造（特に主語と動詞）を正しく捉えられるよう指導する。
- 書くこと
場面が設定された中で、小学校で慣れ親しんだ語句や表現等を用いて、聞いたり話したりする活動を行ってから書く活動へとつなげるよう指導する。

小中学校共通して、言語活動を行う目的や場面、状況を設定するとともに、言語活動における児童生徒の具体的な姿を想定した上で評価規準を設定することを大切にしてください。

